

トウキョウトガリネズミ

トウキョウトガリネズミは、ユーラシア北部に生息している体重2g前後、体長約7cmの世界最小級のほ乳類であるチビトガリネズミの亜種で、国内では北海道にしか生息していません。1903年に国内で初めて発見されたときに産地を「Yezo(蝦夷=北海道の古称)」を「Yedo(江戸=東京)」と間違えて標本ラベルに記載したため、「東京」という名がついてしまいました。2頭目が捕獲されるまで54年間かかったこと、その後も偶然にしか捕獲できなかつたことから、幻の哺乳類と称されていました。2002年に河原 淳氏(環境省 希少野生動植物種保全推進員)の調査にて、浜中町内でトウキョウトガリネズミを捕獲したことから、その捕獲しやすい環境が判明した以降、生きた個体が捕獲できるようになりました。2005年頃には河原氏と多摩動物公園による飼育技術が確立したのを機に、トウキョウトガリネズミと浜中町の自然の保全を目的に、2007年、多摩動物公園と浜中町はパートナーシップ協定を締結しています。



トウキョウトガリネズミは特に体が小さいので、頻繁に草を登ります。トガリネズミ類はモグラの仲間で、「真無盲腸目(しんむもうちょうもく)」に分類されます。ネズミ類は、リストと同じげっ歯目に分類されるので全く異なるグループです。

多摩動物公園 2007年のパートナーシップ協定後、河原氏と共に檜島のトウキョウトガリネズミとオオアシトガリネズミ保護のために生態研究を行っています。2021年には檜島産のオオアシトガリネズミで、国内で初めて、飼育下で越冬させた個体の繁殖に多摩動物園は成功しました。



<https://www.tokyo-zoo.net/zoo/tama/>

トウキョウトガリネズミが結んだご縁

**環境省 希少野生動植物種保存推進員
河原 淳氏**

2006年にNPO法人霧多布湿原トラストに入社後、2007年1月～2011年3月まで霧多布湿原センター館長を務め、2021年には世界で初めてトウキョウトガリネズミの飼育下における出産に成功しました。本種に関する情報を主体とした自然に関するサイトを公開しています。これらの調査は、パートナーシップのもと関係機関の許可を得て行われています。

<http://www.least-shrew.jp/shrew/>

札幌市円山動物園 開園は1951年で、北海道では最も歴史の古い動物園です。2007年12月に円山動物園と酪農学園大学が共同で開催した干支の特別展示「ワイルドマウス展～北海道の野ネズミたち」の開催協力を行ったNPO法人霧多布湿原トラスト(浜中町)と円山動物園はこの機会を捉え、浜中町の自然と野生動植物を守るために協力することに同意してパートナーシップ協定を締結しました。



<https://www.city.sapporo.jp/zoo/>

厚岸霧多布昆布森国定公園

2021年3月30日に指定された、北海道東部の太平洋側に位置する厚岸霧多布昆布森国定公園は、国内で58か所目、道内では6か所目の国定公園です。釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町の4町にまたがる総面積は41,487ha(うち陸域32,566ha)にも及びます。浜中町では、海岸線の後退と砂の堆積で形成された「霧多布湿原」、ほぼ原生的な状態で残され、海が後退した後も水を湛えたまま残る「火散布沼」などの海跡湖のほか、愛冠岬から琵琶瀬に至る海岸線の海食崖、さらには、「檜島」「幌戸沼」などが国定公園区域となっています。



JR花咲線

花咲線には多くの野生植物と野生動物が生息しています。JR北海道釧路支社と沿線地域は協力し合い、花咲線の魅力を伝える取り組みを行っています。詳細はwebサイトをcheck!



浜中町商工観光課・浜中町観光協会

〒088-1592 北海道厚岸郡浜中町湯沸445 TEL.0153-62-2111
浜中町商工観光課 <https://www.townhamanaka.jp/kankou/>
浜中町観光協会 <http://www.kiritappu.jp/>



霧多布湿原センター

〒088-1304 北海道厚岸郡浜中町四番沢20
TEL.0153-65-2779
<http://www.kiritappu.or.jp/center/>



はまなかで はまいましょう

浜中町の野生動物を訪ねて

Let's meet at Hamanaka.

Visiting Wild Animals in Hamanaka Town.

